

## 教育心理学 演習問題

問題1 人格の理論に関する次の文章にある（ A ）～（ E ）に入る適切な人名を書きなさい。

1879年にライプチヒ大学で心理学のための実験室を設けて（ A ）が創始した構成心理学など先行の心理学を、無意識の考慮がなされていないと批判した（ B ）の人格理論は、精神構造をイド（ido）と自我（ego）と超自我（superego）とに分けていて、この三領域が互いに力動的な対立、葛藤、緊張の関係におかれているところに人間のありのままの姿をみるものだった。

（ B ）と学問的な見解から袂を分かつことになった（ C ）によると、自我は意識的な領域であり、認知、記憶、思考、感情などの心的機能をもっており、人格に連続性と同一性を与え、外界に対する適応や行動の統制を可能ならしめるものであるとした。自我は、内界と外界とに面して生きており、心的エネルギーを主として内界に注ぐ場合を内向性、外界に向ける場合を外向性という。

人格論は、他にも、体型と精神病理学的分類形式に基づく性格との間に密接な関係があるものと考え、包括的な研究を行い、精神病や精神病質を含む性格理論に、身体構造のもつかわりを究明した（ D ）や、6種類（経済・宗教・権力・社会・理論・審美）の基本的な生活領域を設定しどこに最も価値を認めるかで類型論を展開した（ E ）などがある。

問題2 次のア～クのうち、投影法性格検査ではないものが2つある。その2つの組み合わせとして正しいものを1～5から選べ。

- |                  |               |           |
|------------------|---------------|-----------|
| ア MPI            | イ SCT         | ウ CAT     |
| エ 内田・クレペリン精神作業検査 | オ ロールシャッハ・テスト |           |
| カ TAT            | キ HTP テスト     | ク PF スタディ |

1. ア、エ
2. イ、オ
3. ウ、カ
4. エ、キ
5. オ、ク

問題3 次のA～Eの例と（ア）～（オ）の適応機制の組み合わせが正しいものを選び。

- A. 社会の試験ができなかったことを、問題が悪いせいにする。
- B. 有名な学者と出身地が同じことを自慢する。
- C. 失恋のショックを歌という形で表現する。
- D. スキャンダルを告発された芸能人が病気になって入院する。
- E. 英語を話せるようになりたいのに、英語なんてできても仕方がないと言う。

（ア）同一視      （イ）昇華      （ウ）逃避      （エ）反動形成      （オ）合理化

- 1. A - (ウ)      2. B - (イ)      3. C - (オ)
- 4. D - (ア)      5. E - (エ)

問題4 次の文の空欄に入る適語を書きなさい。

アイゼンクが提唱した学習理論を背景とした心理療法を（ A ）という。その技法の一つとして、不安階層表に従って不安の除去と克服を目指す（ B ）がウォルピによって考案された。また、近年は認知行動療法が注目されており、エリスは（ C ）という、クライアントが問題行動にいたるまでの思考スタイルが、非合理的信念体系であると捉え、これを、合理的な信念体系に変えていくことを目指した。このとき、自己の論理的な言葉の変容が重視される。

他方、集団療法としては、来談者中心療法で有名な（ D ）のエンカウンター・グループや、（ E ）の心理劇などが有名である。

問題5 次の発達に関する選択肢のうち、妥当なものを1つ選びなさい。

- 1. 幼児期に物にも生命が宿っていると考えることをマターナル・デプリベーションとボウルビーは呼んだ。
- 2. 児童期のギャング・エイジとは、あえて親の言うことと反対のことをしようとするもので、日本では「いやいや期」と呼ばれる。
- 3. ロックは、青年期を著書『人間悟性論』の中で第二の誕生と捉え、それまでのことが一旦白紙になり、青年期以降の出会いや経験が人物を作り上げるとした。
- 4. エリクソンは、成人としての責任や義務を猶予された準備期間をモラトリアムと呼び、小此木啓吾は日本でこれが長引く点を「モラトリアム人間」と批判的に捉えた。
- 5. ハヴィガーストは、子どもから大人への過渡期で、不安定な青年期を、子どもと大人の境界線のうえに立ちつつ、どちらでもないとしてマージナル・マン（境界人）と呼んだ。

問題6 次の表は、一般的な発達段階の区分と、ピアジェ、フロイトの発達段階の区分を表している。図表の番号と発達段階の名称が合致しているものを選びなさい。

一般的区分	ピアジェ	フロイト
乳児期	①	⑥
幼児期	前半：② 後半：③	前半：⑦ 後半：⑧
児童期	④	⑨
青年期	12歳以降は⑤	12～25歳：⑩
成人期		成熟期
老年期		

1. ①が口唇期、⑥が感覚運動期
2. ②が直感的思考段階、③が象徴的思考段階
3. ⑦が肛門期、⑧が潜伏期
4. ④が具体的操作期、⑨が男根期
5. ⑤が形式的操作期、⑩が性器期

問題7 次の発達に関する記述のうち、正しいものはいくつあるか。記号で全て挙げなさい。

- A. ゲゼルは双生児統制法を用いて、発達には遺伝的要因と環境的要因の加算系で表されるとした。なお、これを表した図をルクセンブルガーの図という。
- B. シュテルンは環境閾値説を唱え、身体の器官は器官ごとに発達過程が異なるとして、リンパ型・神経型・一般型・生殖型の4つのタイプを示した。
- C. ブリッジスは情緒の発達を研究し、新生児の興奮状態から不快と快が分化し、その後は不快をさらに怒りや嫌悪、恐怖へと分化させた後、快の分化が始まるとした。
- D. コールバーグは認知能力と役割能力取得の向上と結びついて道徳が発達する3水準6段階からなる道徳の発達論を唱えた。最後の6段階目は「良い子」志向である。
- E. サイモンズは親の養育態度が子どもの性格の発達に影響を及ぼすとした。例えば、親の養育態度が過保護型のときには子どもは依存的・幼児的になりやすいとした。

**問題8** 学習に関する次の文にあてはまる人物を書きなさい。

- A. ネコが問題箱から脱出する様子を観察し、試行錯誤説を唱えた。
- B. 条件刺激により特定の反応が誘発されるという古典的条件づけを唱えた。
- C. 直接的な強化が無くても学習が成立することを示し、社会的学習論を主張した。
- D. オペラント条件づけを唱え、行動療法や学習の個別化を応用した。
- E. 洞察説を唱え、見通しを得ることが学習成立の重要な要因となることを指摘した。
- F. 好きでやっていることに外発的動機づけが加わると内発的動機づけが減少することをアンダーマイニング効果と呼んだ。
- G. 何かの作業をするときに必要な情報を記憶から取り出して、情報を一時的に保つ能力をワーキングメモリと呼んだ。
- H. マスタリー・ラーニングを行うために診断的評価・形成的評価・総括的評価を提唱し、学習評価に影響を与えた。

**問題9** 次の文章のうち、妥当なものはどれか。

- 1. 性格を評価する際に、容姿が優れていると性格も良いと思ってしまうといった、評価対象でない側面の影響を受けて、評価が一定の方向に傾くことをピグマリオン効果という。
- 2. グッドイナフが開発した、男女の絵を自由に描かせ、そこから知能水準の診断を行う ITPA 検査は、学習障害 (LD) の診断に用いられている。
- 3. ワイナーの原因帰属理論とは、学習の動機づけは難易度によって適切に保つ必要があるというものである。
- 4. セリグマンとマイヤーは、記銘直後よりも一定時間後においての方が、記憶成績が良いことを忘却曲線を用いて記述した。
- 5. クロンバックは学習者の個性により、適切な学習方法が異なるとする適性処遇交互作用を提唱した。

**問題10** 集団検査、集団理解に関するA～Dの人名とキーワードの組合せのうち、誤っているものを全て選べ。

- |    | 人名     | キーワード         |
|----|--------|---------------|
| A. | モレノ    | ソシオグラム        |
| B. | ハーツホーン | U. S. アーミーテスト |
| C. | ヤーキーズ  | ゲス・フー・テスト     |
| D. | 三隅二不二  | PM 理論         |

## 解答・解説

問題1 解答 A ヴント B フロイト C ユング  
D クレッチマー E シュブランガー

Aのヴントは、構成心理学以外に内観法というキーワードがある。Bは「力動」からフロイトを、Cは「内向」や「外向」からユングを、それぞれ導ける。Dは、体質がよりよく発達している場合とあればシェルドンであるが、精神病理学とあるのでクレッチマーとなる。

問題2 解答 1

アのMPIは質問紙を用いるため質問紙法である。質問項目は80項目で、その中に虚偽発見尺度の20項目と緩衝項目の12項目が含まれる。エの内田・クレペリン精神作業検査は作業という言葉通り作業検査法である。その他の投影法について、どのような検査をするのかはテキストの該当箇所に戻って確認しておこう。

問題3 解答 5

Aは、単に自分を納得させる理屈によって自己弁護を図っているので合理化(オ)である。Bは、自己と他者を同じように感じているので同一視(ア)となる。Cは、失恋によるショックという欲求不満状態を芸術活動である歌を用いているため昇華(イ)になる。Dは、病気の入院となればスキャンダル告発対応できないため逃避(ウ)といえる。Eは自己の欲求と敢えて反対の言動であるため反動形成の(エ)となる。

問題4 解答 A 行動療法 B 系統的脱感作法

C 論理療法(ABCDE理論) D ロジャーズ E モレノ

心理療法は、他にフロイトの精神分析療法、ローエンフェルドの箱庭療法、アンナ・フロイトらの遊戯療法なども頻出のため、グループを系統だててしっかりおさえておこう。

問題5 解答 4

1. 幼児期に物にも生命が宿っていると考えることはアニミズムといい、ピアジェの発達理論で記述された。マターナル・デプリベーションは母子相互作用欠如をいい、ボウルビーの研究で明らかにされた。
2. 児童期のギャング・エイジとは同年代の同性の集団という意味であり、必ずしも親に反抗するわけではない。また、「いやいや期」は2歳児ごろを指すので児童期ではない。

3. 第二の誕生は、ルソーの著書『エミール』からである。ロックが『人間悟性論』を著したのは正しいが、白紙（タブラ・ラサ）なのは、人間が生まれたときであり、青年期ではない。
4. 妥当である。
5. ハヴィガーストは発達課題を挙げた人物。マージナル・マン（境界人）と青年期を特徴づけたのはレヴィンである。

### 問題6 解答 5

表を埋めると以下となる。なお、ピアジェは認知や思考に焦点を当てた発達段階説であり、フロイトはリビドーがあらわれる部位で発達段階を唱えていることを理解していれば、1の選択肢は違うとすぐわかる。また、幼児期の前半にアニミズムから見立て遊びやごっこ遊びがあることを踏まえると②が象徴的思考で、③が直感的思考と気づけるので選択肢2も違うと判断できる。

そして、フロイトの発達段階説は、幼児期がエディプス期で親への性愛的な感情とその未成就から超自我を形成し、児童期に一旦リビドーが潜伏するが、青年期に第二次性徴から活動が再開する流れを踏まえておくと、選択肢3・4が誤りと分かる。

以上のように、丸暗記に頼らず理解をして選択肢を検討できるようにしていこう。

一般的区分	ピアジェ	フロイト
乳児期	①感覚運動期	⑥口唇期
幼児期	前半：②象徴的思考段階 後半：③直感的思考段階	前半：⑦肛門期 後半：⑧男根期
児童期	④具体的操作期	⑨潜伏期
青年期	12歳以降は ⑤形式的操作期	12～25歳：⑩性器期
成人期		成熟期
老年期		

### 問題7 解答 CとE

- A. ゲゼルは双生児統制法を確かに用いたが、その主張は発達の要因として遺伝的要因を重んじるものだった。発達を、遺伝的要因と環境的要因の加算系で表されるとしたのは、シュテルンで、輻輳説という。「なお」以降の記述は正しい。
- B. 環境閾値説はジェンセンが唱えた。また、この説は、遺伝的な発現がどの程度環境に左右されやすいかは特性によるという考えを指す。問題文の「身体の器官は器官ごとに発達過程が異なる」として、リンパ型・神経型・一般型・生殖型の4つのタイプを示した」のは、スキヤモンである。
- C. 妥当である。不快に属する感情が分化してあられ、この後に快に属する感情が分化してあられる。

- D. 前半は正しい。ただ、最後の6段階目は「普遍的で原理的志向」であり、「良い子志向」は3段階目である。
- E. 妥当である。

問題8 解答 A ソーンダイク B パプロフ C バンデューラ  
D スキナー E ケーラー F デシ G バドリ  
H ブルーム

いずれも頻出人物と理論なのでしっかり整理し暗記しよう。なお、Cの社会的学習論は観察学習（モデリング）のことを指す。

問題9 解答 5

1. 問題文はハロー効果の説明。ピグマリオン効果とは、教員が期待した児童生徒には、それが児童生徒の心理に影響を及ぼし、期待した方向に変化する現象をいう。
2. グッドイナフが開発したものは、確かに、男女の絵を自由に描かせ、そこから知能水準の診断を行うものだが、グッドイナフ人物画知能検査という。ITPA 検査は、学習障害（LD）の診断に用いられているが、カークによって開発された。
3. 「学習の動機づけは難易度によって適切に保つ必要があるというもの」をヤーキーズ・ドットソンの法則という。ワイナーの原因帰属理論は、課題達成、あるいは失敗の原因をどのように考えるかについて、内的・外的の軸と、統制の可否の軸をつくり、後者にはその統制が安定的か否かで分類したものである。
4. セリグマンとマイヤーは学習性無力感（自分の行動が無力であることを学習した経験から無力感が獲得されてしまうこと）の概念を提示した研究者である。記銘直後よりも一定時間後においての方が、記憶成績が良いことはレミニッセンスという。そして、忘却曲線を用い記銘直後からすぐに多くを忘れ、その後緩やかに忘却していくことを説明したのはエビングハウスである。
5. 妥当である。

問題10 解答 BとC

Bのハーツホーンがゲス・フー・テストで、CのヤーキーズがU.S.アーミーテストである。